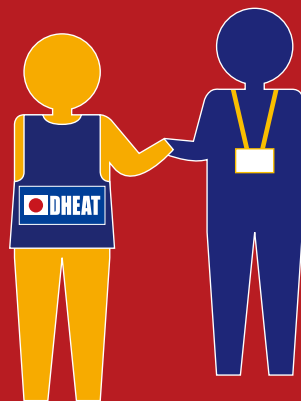


特集

災害と地域保健

科学的危機管理 の視点から



東日本大震災の後も、地震、水害や噴火などの災害は頻発している。健康危機管理はもはや全自治体で取り組むべき課題であり、支援のみならず受援体制構築も重要な課題となる。本特集では制度の変化や、災害に備える自治体の事例を紹介する。

- 自然災害に関する制度上の変化
受援自治体の保健師に求められるもの
- 災害時において保健師に期待されるもの
今まで果たしてきた役割、新たに果たす役割
- 山梨県における「危機管理調整システム」導入の試み
どのような健康危機においても地域保健を守る組織的対応を目指して
- 保健師対象災害研修において役立つ手法と
危機管理部署との連携の視点
- 【大分県西部保健所の取り組み】
受援体制構築に向けて
DHEATの受け入れとリエゾン保健師の役割
- 【船橋市の取り組み】
危機管理調整システム(ICS)の導入